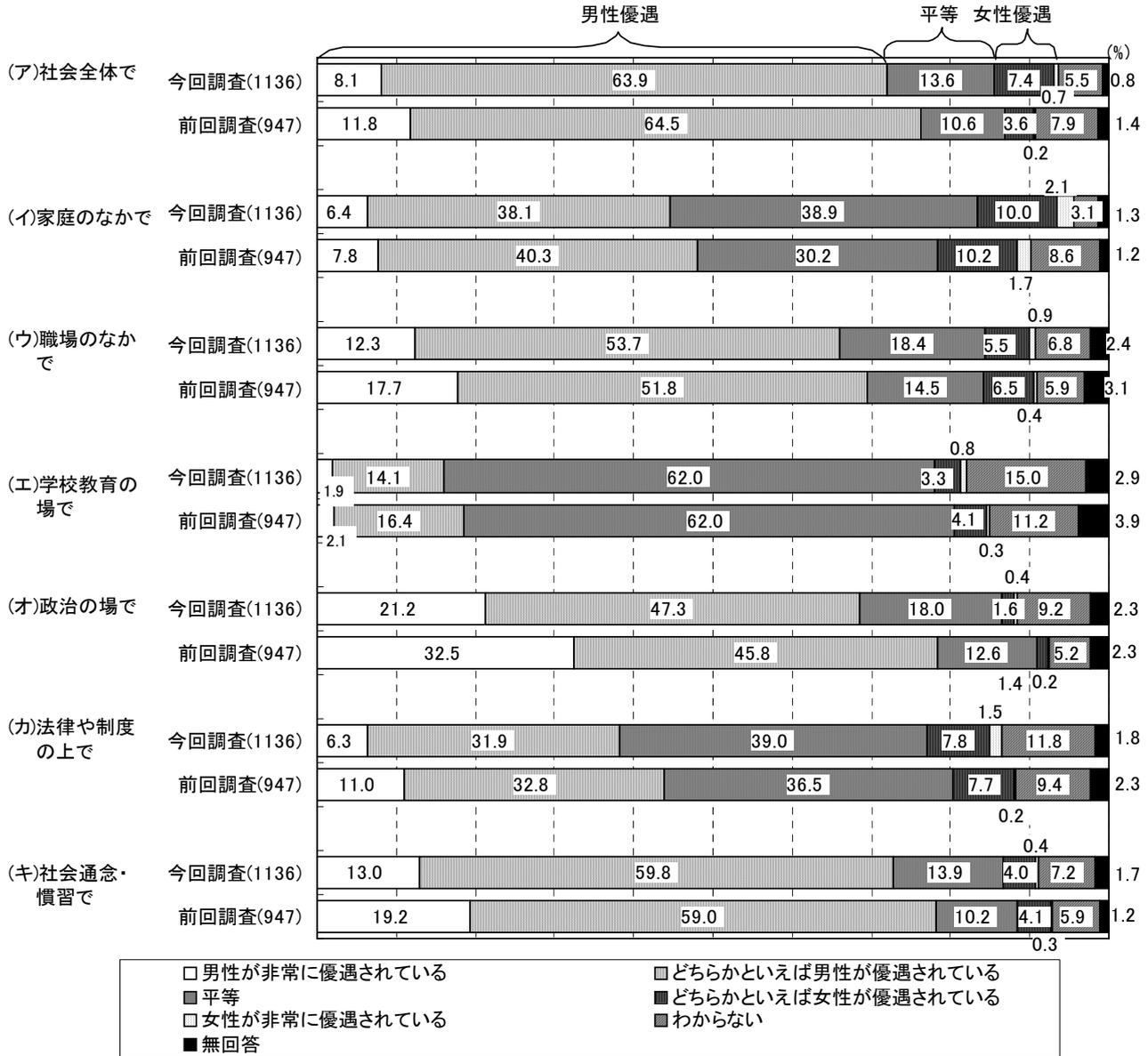


2. 男女共同参画に関する意識等について

(1) 男女平等意識

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(キ)のそれぞれについてあなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。

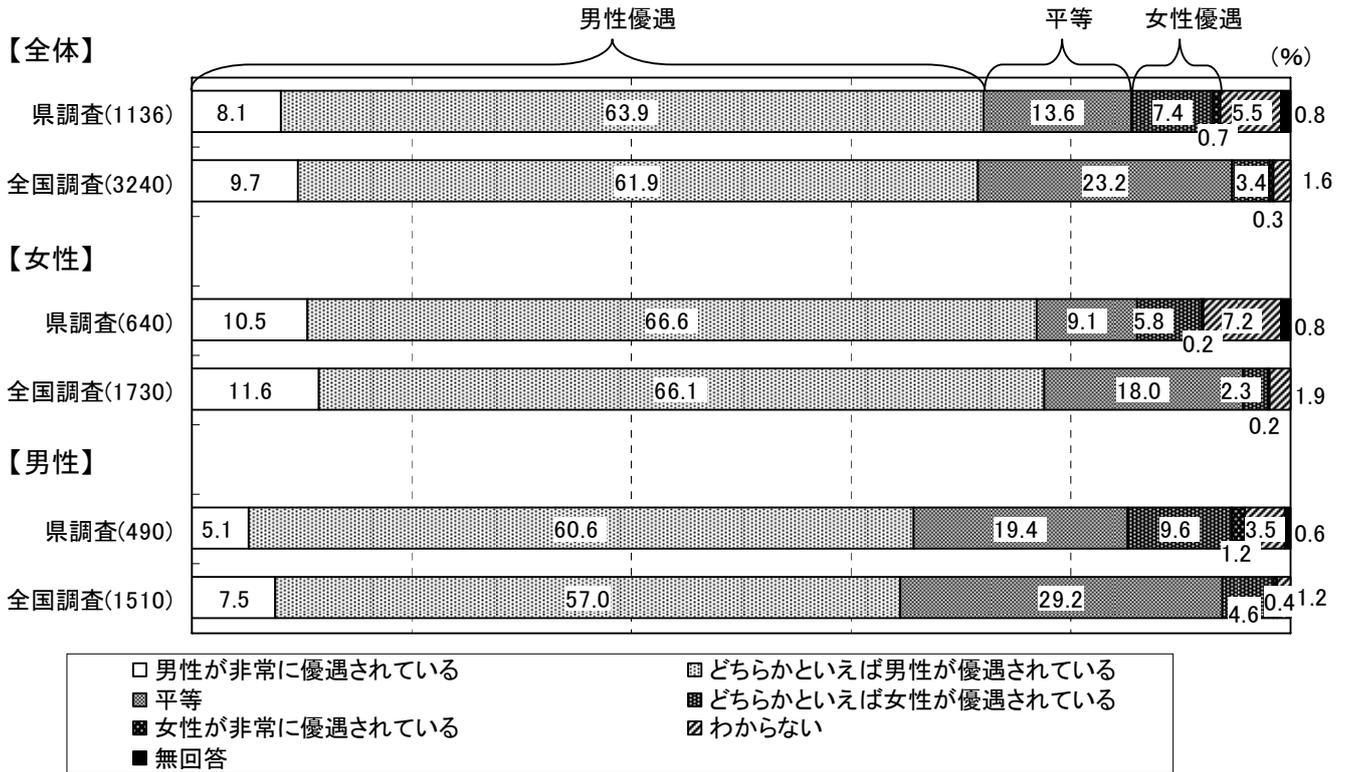


「社会全体で」、「家庭のなかで」、「職場のなかで」、「学校教育の場で」、「政治の場で」、「法律や制度の上で」、「社会通念・慣習で」の7分野について、男女の地位が平等になっているかどうかを聞いたところ、「学校教育の場で」と「法律や制度の上で」を除く分野で、『男性優遇』と回答している割合が最も高くなっている。特に「社会全体で」、「職場のなかで」、「政治の場で」、「社会通念・慣習で」は、『男性優遇』と回答している割合が高い。また、「学校教育の場で」は、6割以上が『平等』と回答している。

【前回調査(平成16年)との比較】

平成16年に実施した調査と比較すると、『男性優遇』と回答している割合は、全ての項目で前回より低くなり、中でも「政治の場で」が9.8ポイントと大きく減少した。一方「平等」と回答した割合は「学校教育の場で」を除く全ての項目で増えている。

【全国調査(平成 21 年)との比較(社会全体における男女の地位の平等感)】



内閣府が平成 21 年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」と比較すると、「社会全体で」の男女の地位が平等になっているかについては、『男性優遇』と回答している割合は、全国と若干の差（千葉県 72.0%、全国 71.6%）にとどまっているが、『平等』と回答している割合は、千葉県の方が男女（千葉県：女性 9.1%、男性 19.4%、全国：女性 18.0%、男性 29.2%）とも低くなっており、全体では 9.6 ポイントの差がある。

※全国調査における、『どちらともいえない』の回答を『わからない』として比較

(ア) 社会全体で

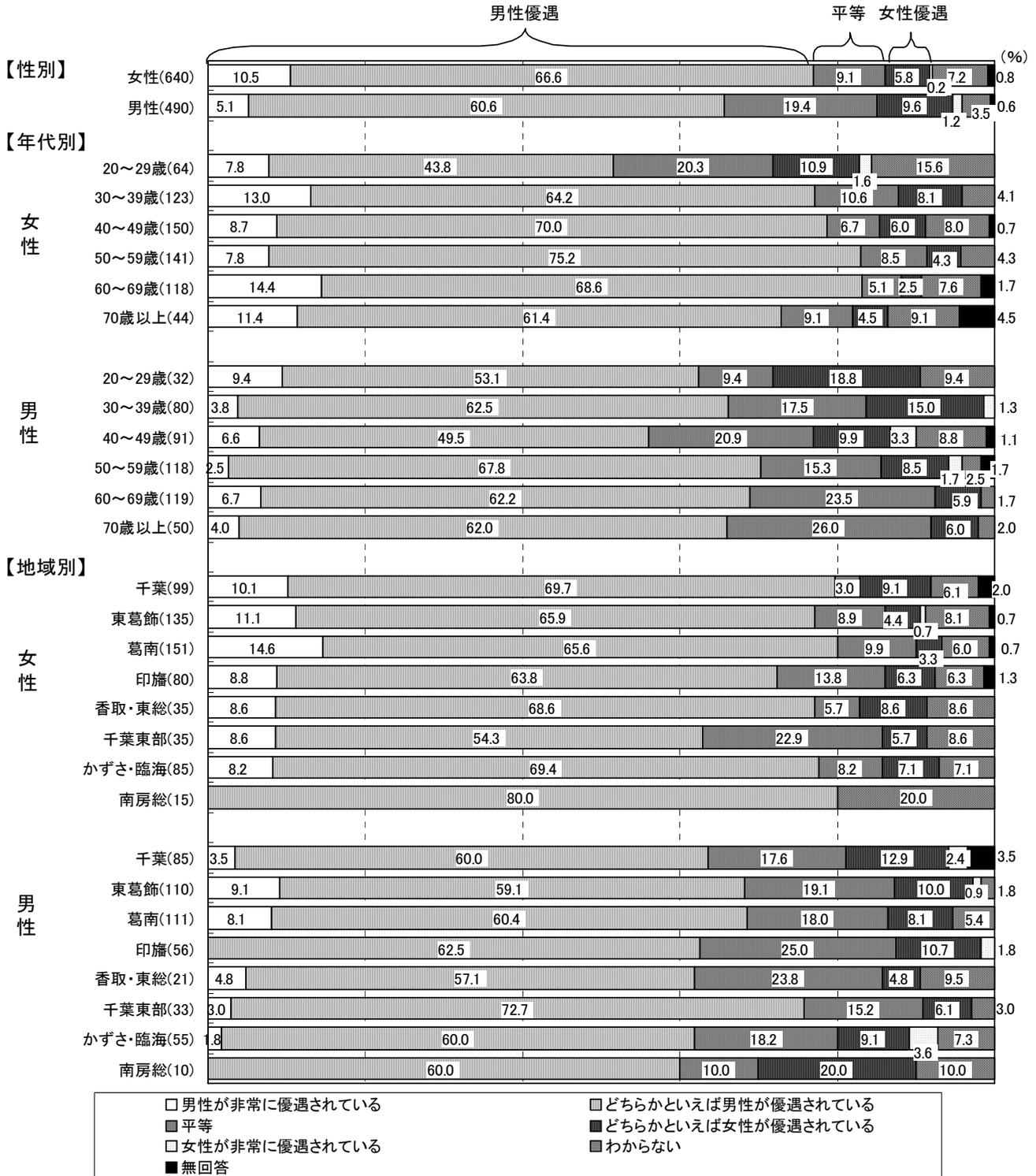
女性の77.1%、男性の65.7%が『男性優遇』と回答しており、男性より女性の方が不平等と感じていることが伺える。

【年代別】

全体を通して『男性優遇』の割合が高いが、中でも女性の50代(83.0%)、60代(83.0%)が高くなっている。一方で、男性では40代が56.1%と最も低い。また、20代は、比較的『男性優遇』の割合が低いといえるが、女性(51.7%)より男性(62.5%)の方が『男性優遇』の割合が高く、他の年代と逆転している。

【地域別】

『男性優遇』と回答している割合は、「千葉東部」を除く全ての地域で女性の方が男性より高い。



(イ) 家庭のなかで

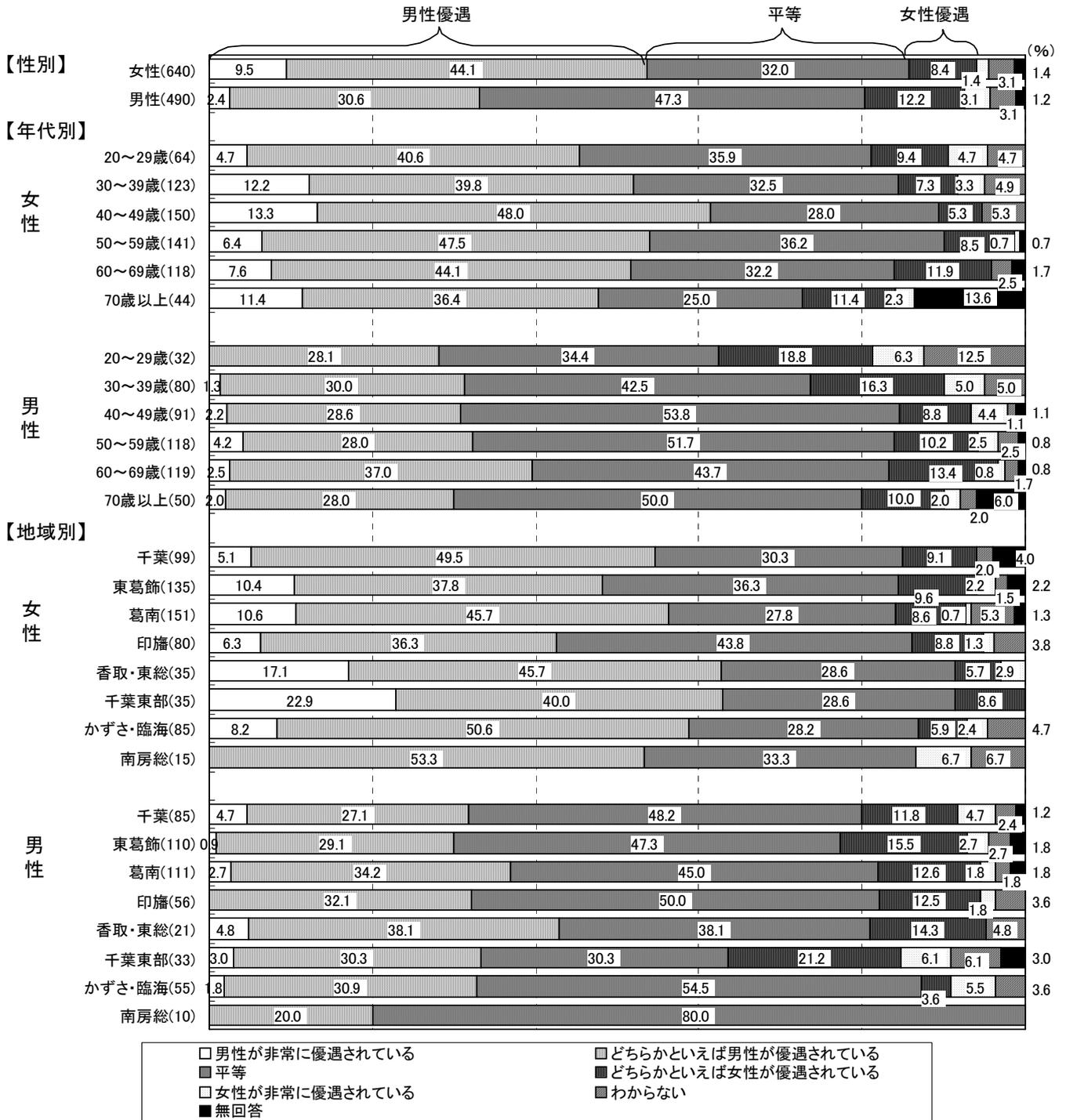
『男性優遇』と回答した割合が女性 53.6%に比べ男性では 33.0%と、20.6ポイント女性のほうが高い。また、男性では『平等』(47.3%)が『男性優遇』(33.0%)を14ポイント以上上回るなど、男女の意識の違いが顕著である。

【年代別】

女性では、40代で『男性優遇』が61.3%と最も高く、すべての年代で『平等』を上回っている。一方男性では60代で『男性優遇』が39.5%で最も高く、すべての年代で『平等』が『男性優遇』を上回っている。

【地域別】

『男性優遇』と回答している割合は、印旛を除く全ての地域で男性より女性のほうが高い。なお、印旛地域では男女共に『平等』が『男性優遇』を上回っている。



(ウ) 職場のなかで

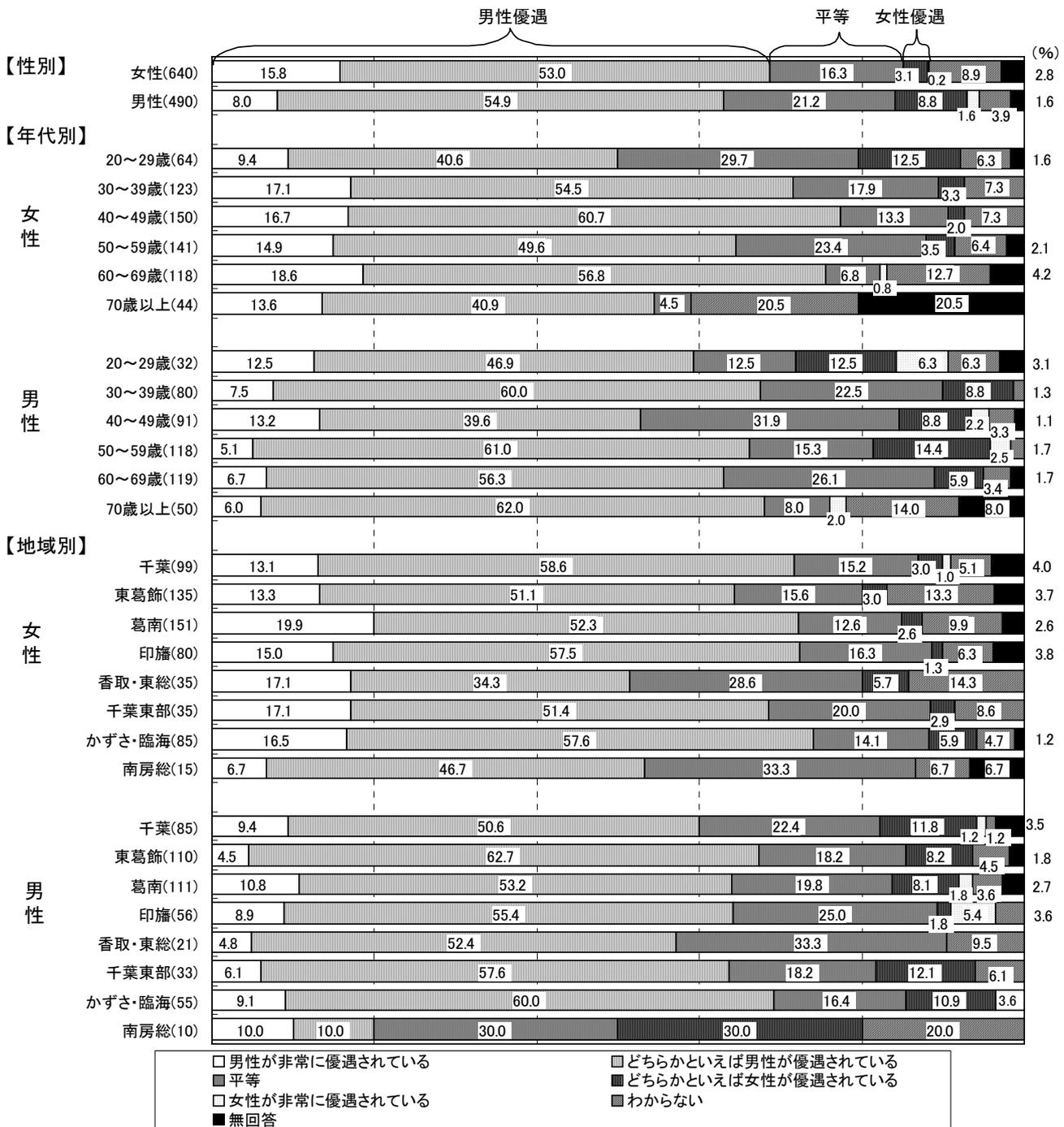
女性の68.8%、男性の62.9%が『男性優遇』と回答しており、男女ともに、不平等と感じている割合が高くなっている。

【年代別】

男女ともに『男性優遇』がいずれの年代でも高くなっているが、女性では40代で77.4%と特に高い割合となっている。一方で男性の40代は、全ての年代の中で最も『男性優遇』(52.8%)が低く、『平等』(31.9%)が高くなっており、40代において男女の意識の差が顕著である。また、20代においては、『男性優遇』の割合が女性より男性のほうが高い。(女性50.0%、男性59.4%)

【地域別】

香取・東総地域を除くすべての地域で、『男性優遇』の割合は女性の方が高い。なお、香取・東総地域では、『男性優遇』と感じる人の割合が、女性(51.4%)より男性(57.6%)の方が高い。



(エ) 学校教育の場で

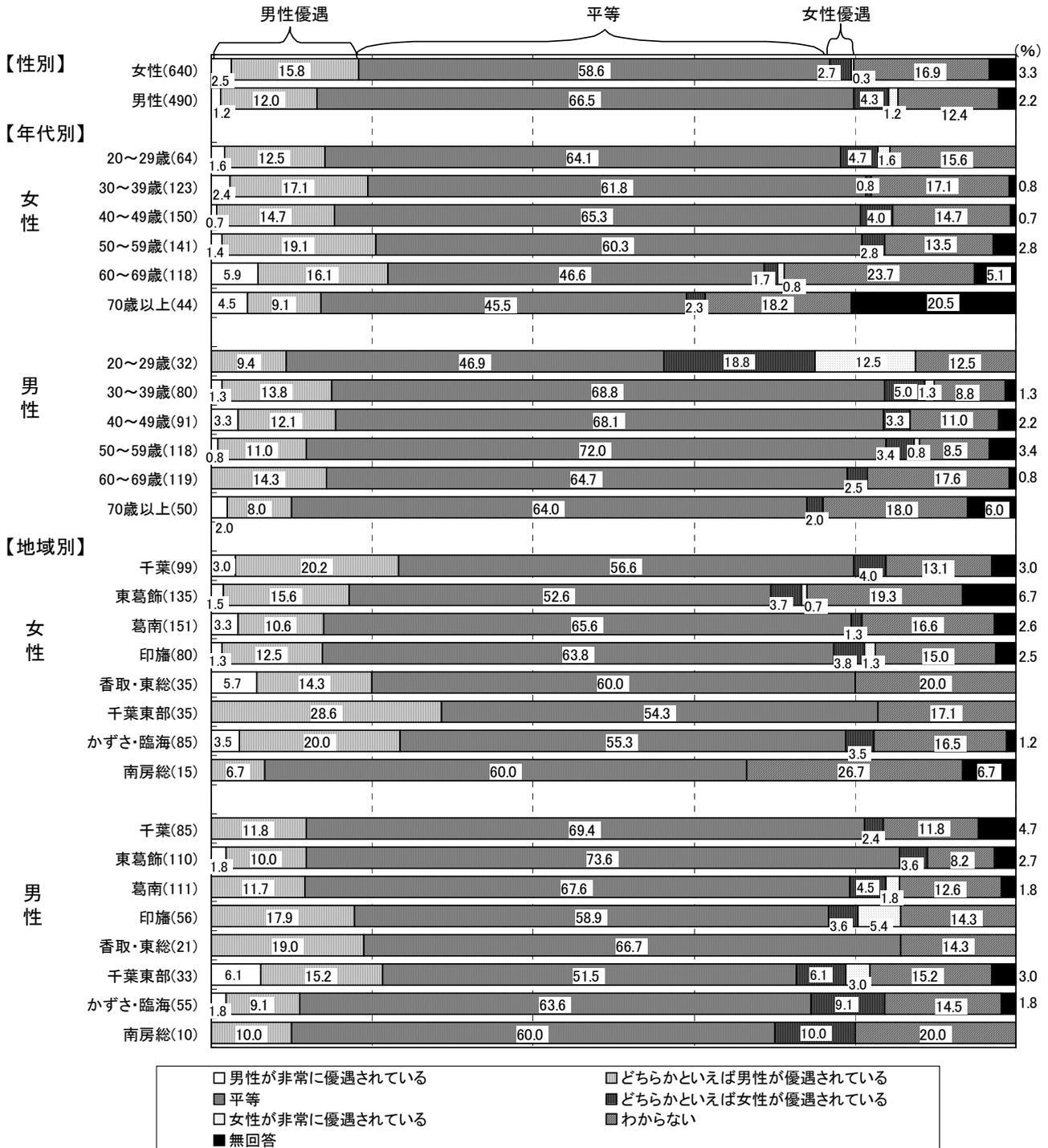
この項目では、『男性優遇』が女性 18.3%、男性 13.2%に対し、『平等』が女性 58.6%、男性 66.5%となり、男女とも『平等』が『男性優遇』を大きく上回っている。

【年代別】

男女ともすべての年代で『平等』が一番多く、また、20代を除いて『平等』と回答した割合は女性より男性が高い。なお、20代においては、『平等』と回答する割合は女性の方が17.2ポイント高く(女性64.1%、男性46.9%)、『女性優遇』の回答においても男性が31.3%で『男性優遇』(9.4%)の約3倍を示すなど、他の年代と異なる特徴を示している。

【地域別】

すべての地域で『平等』と答えている割合が最も高い。



(オ) 政治の場で

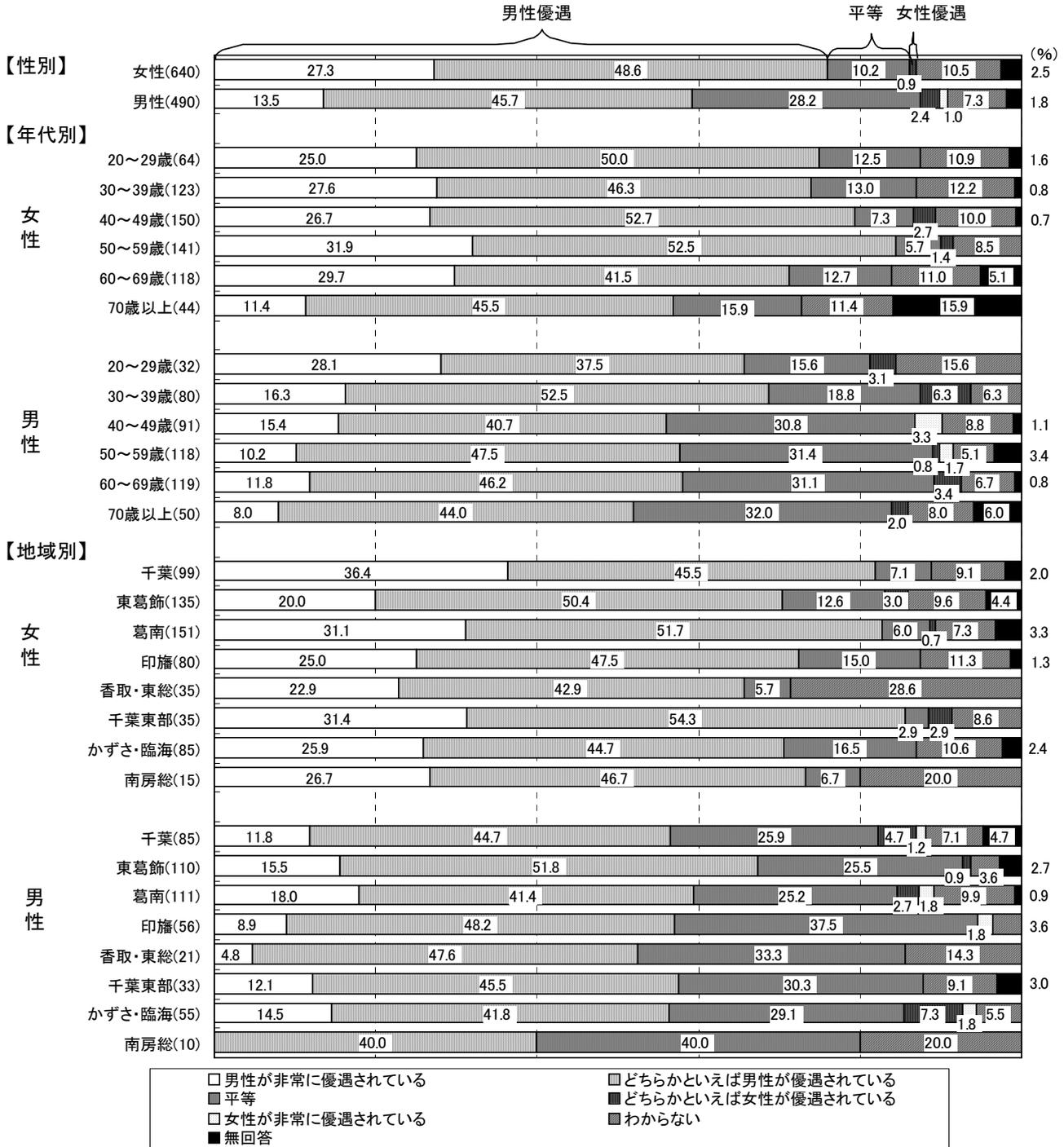
女性では75.9%が『男性優遇』と回答し、男性は59.2%である。また、『平等』は女性の10.2%に対し、男性は28.2%となっており、女性の方が不平等と感じている割合が高い。

【年代別】

男女ともに全ての年代で『男性優遇』と回答している割合が一番多い。また、男性では若い年代より中高年の年代の方が『平等』と回答した割合が高い傾向を示すが、女性は年代による特徴的な差はない。

【地域別】

全ての地域で、『男性優遇』と回答している割合は女性が男性を上回っている。



(カ) 法律や制度の上で

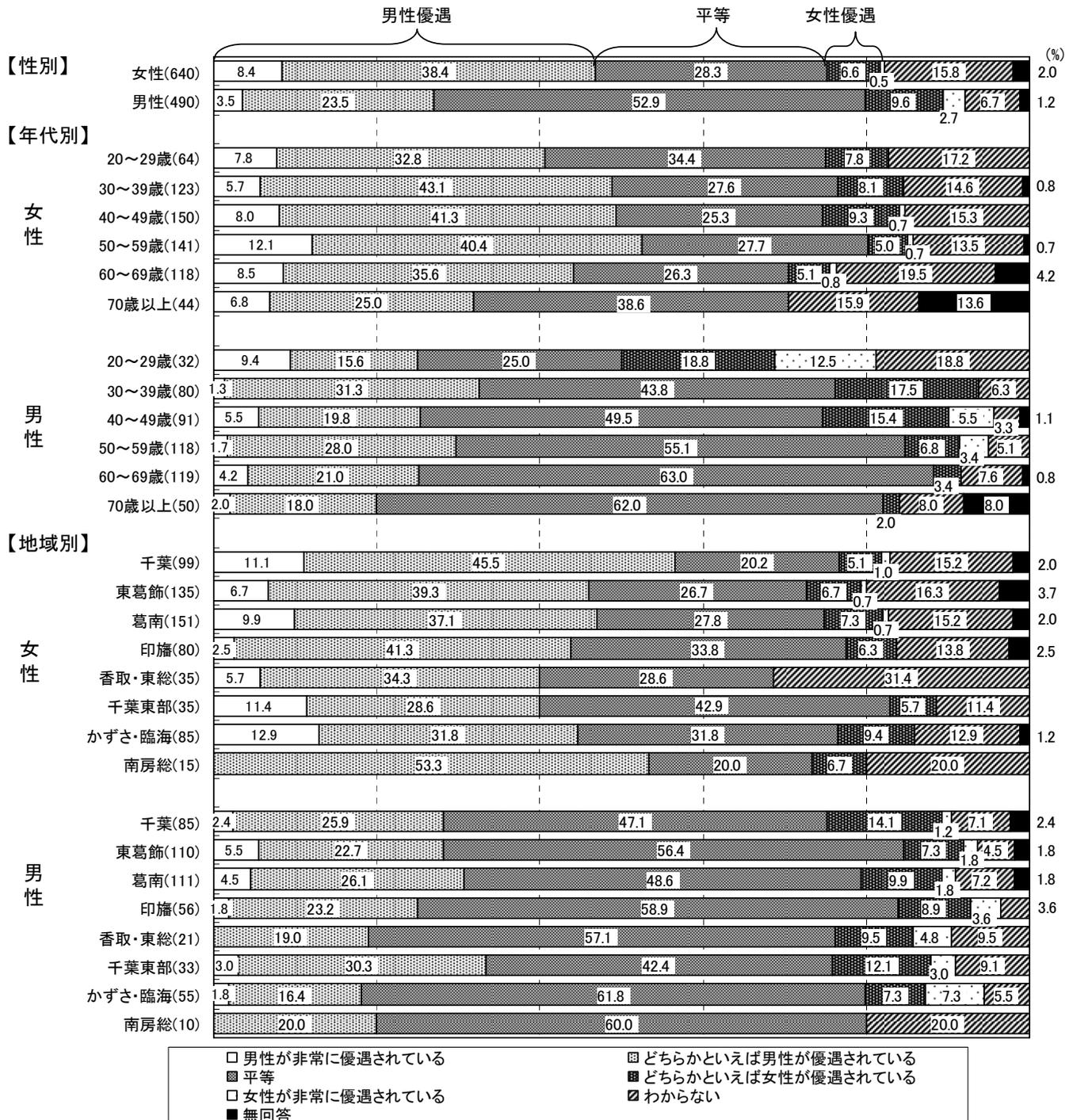
女性では、『男性優遇』(46.8%)が『平等』(28.3%)を上回っているが、男性では『平等』(52.9%)が『男性優遇』(27.0%)を上回っており、男女の差が顕著である。

【年代別】

女性では70代以上を除く全ての年代で『男性優遇』が『平等』よりも高い。男性では20代を除く全ての年代で『平等』が最も高くなっている。また、男性の20代では、『女性優遇』(31.3%)が『男性優遇』(25.0%)を上回るなど、他の年代と異なる特徴がある。

【地域別】

すべての地域で『男性優遇』と回答している割合は女性のほうが男性より高く、また、すべての地域で男性は『男性優遇』よりも『平等』と回答した割合が高い。



(キ) 社会通念・慣習で

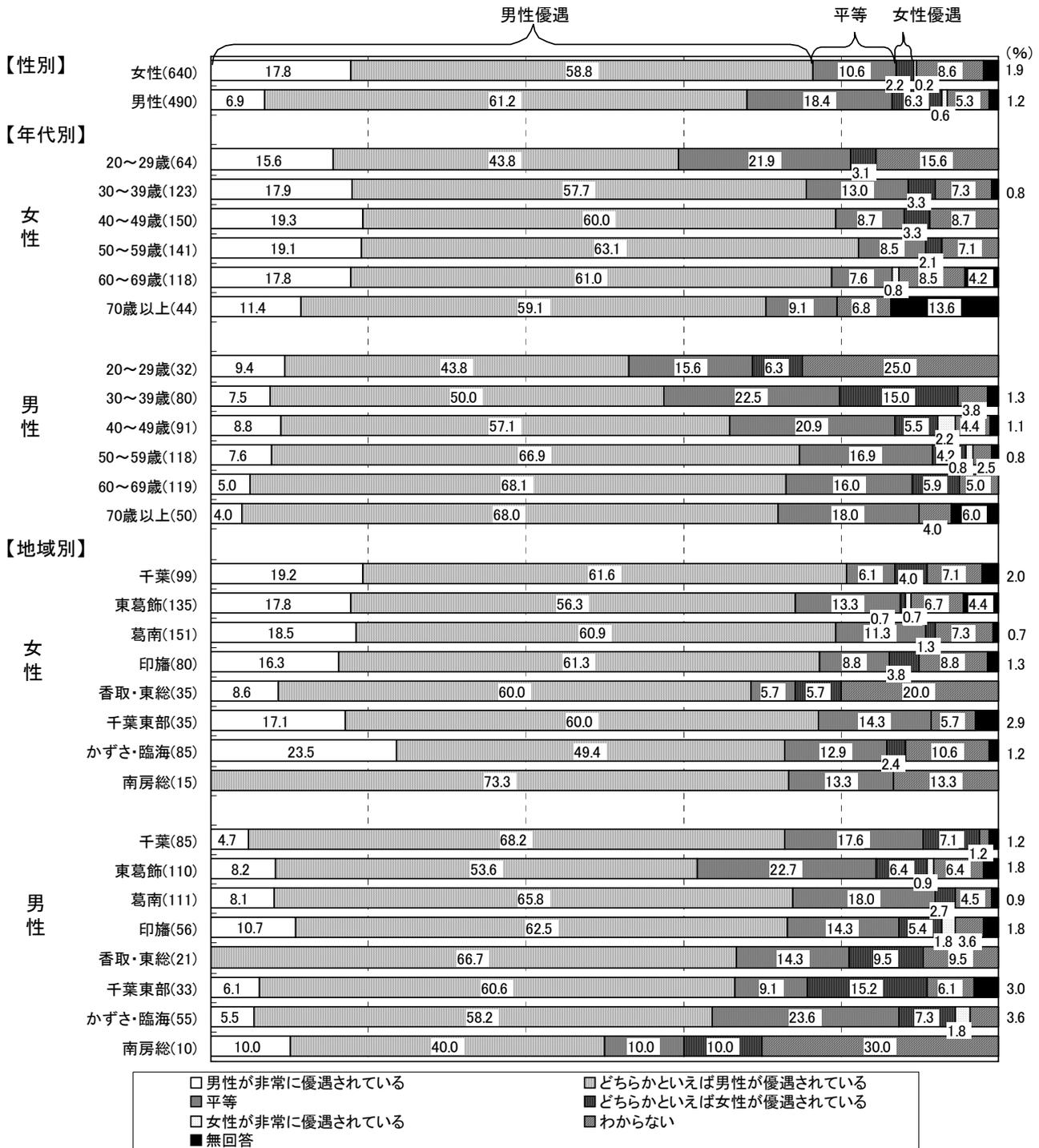
女性の76.6%、男性の68.1%が『男性優遇』と回答しており、男女とも、不平等と感じている割合が高くなっている。

【年代別】

女性は20代を除く全ての年代で『男性優遇』の割合が70%を超えている。男性も、全ての年代で『男性優遇』が50%を超えているが、その割合は女性より低い。男女とも中高年において『男性優遇』と回答している割合が高い。

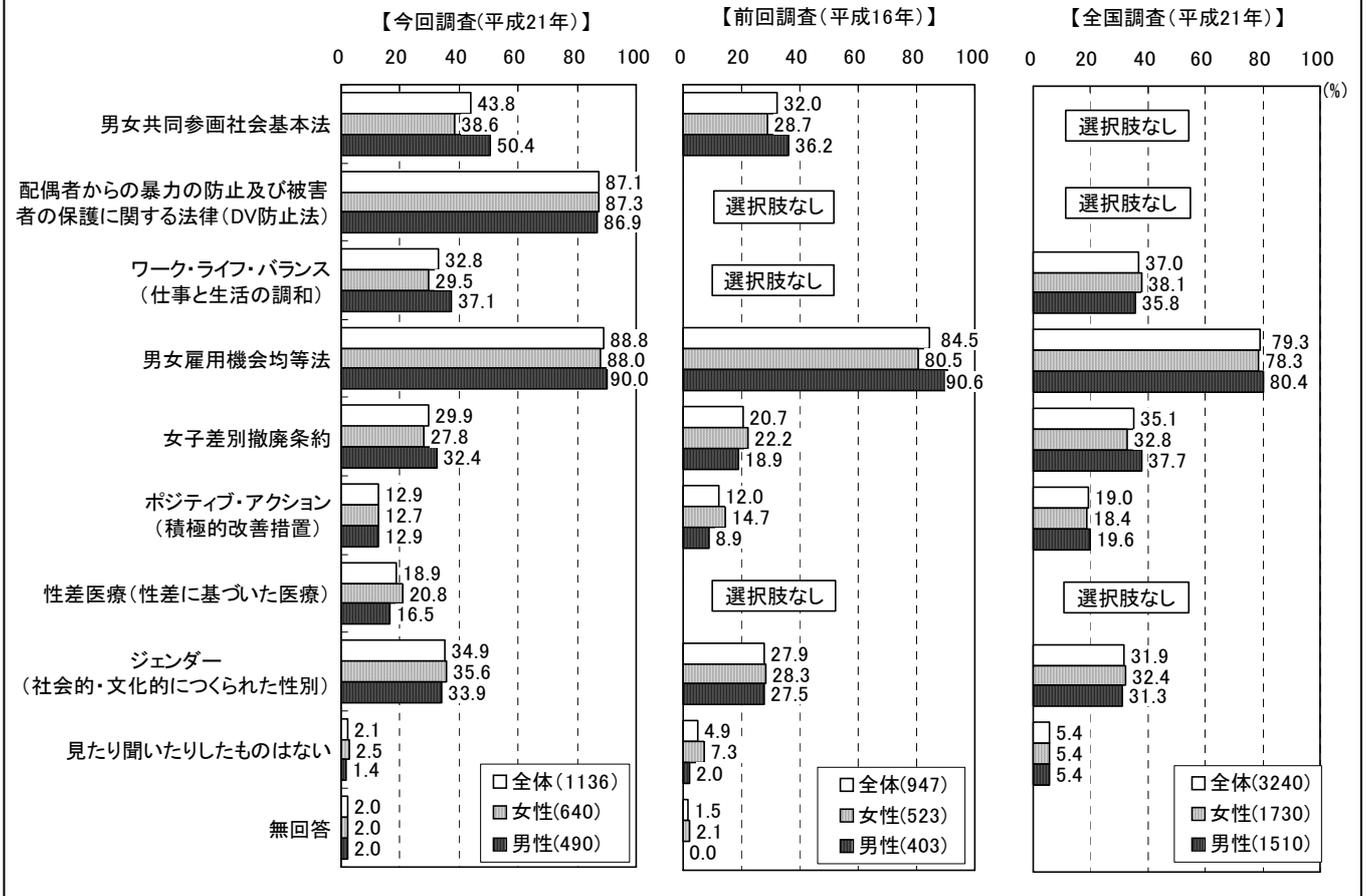
【地域別】

男女とも、すべての地域で『男性優遇』がいちばん多い。特に「千葉」(女性80.8%、男性72.9%)と「葛南」(女性79.4%、男性73.9%)では、男女とも『男性優遇』と回答した割合が高い。



(2) 用語の周知度

問2 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある番号すべてに○をつけてください。



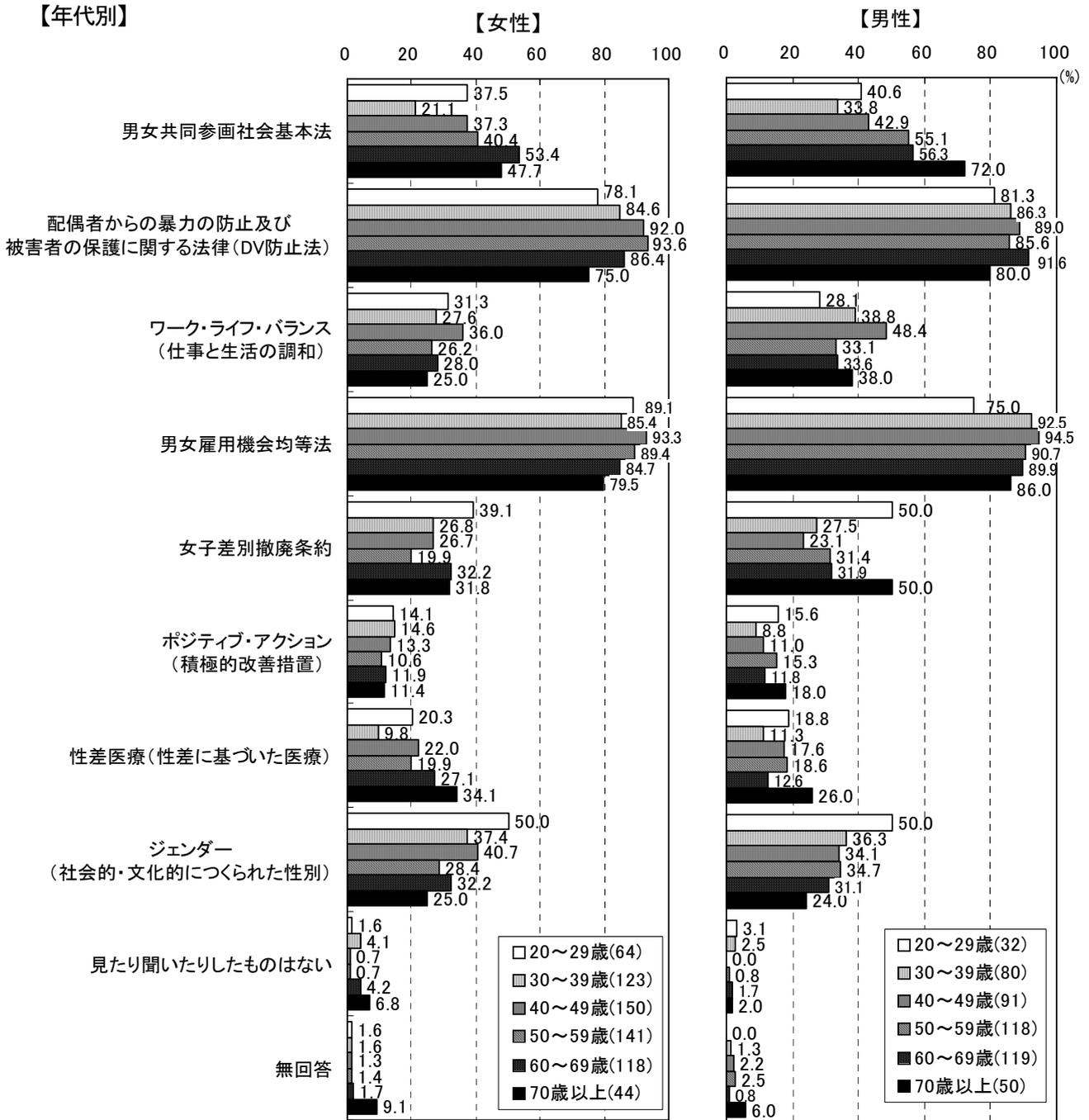
用語の周知度については、男女とも『男女雇用機会均等法』（女性88.0%、男性90.0%）が最も多く、次いで『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）』（女性87.3%、男性86.9%）であり、『男女共同参画基本法』や『ワーク・ライフ・バランス』、『女子差別撤廃条約』『ポジティブ・アクション』『性差医療』『ジェンダー』については、いずれも50%以下である。

【前回調査(平成16年)との比較】

平成16年に実施した前回調査と比較すると、『男女共同参画社会基本法』の周知度が全体で11.8ポイント、男女別では女性は9.9ポイント、男性は14.2ポイント上昇しており、『女子差別撤廃条約』も全体で9.2ポイント、女性は5.6ポイント、男性は13.5ポイント上昇している。なお、『見たり聞いたりしたものはなし』（前回4.9%、今回2.1%）は前回より2.8ポイント減少している。

【全国調査(平成21年)との比較】

内閣府が平成21年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」と比較すると、『男女雇用機会均等法』の周知度は全体で約10ポイント、『ジェンダー』についても約3ポイント、県が全国を上回っている。反対に『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』では4.2ポイント、『女子差別撤廃条約』では5.2ポイント、『ポジティブ・アクション』では6.1ポイント、全国が千葉県を上回っている。

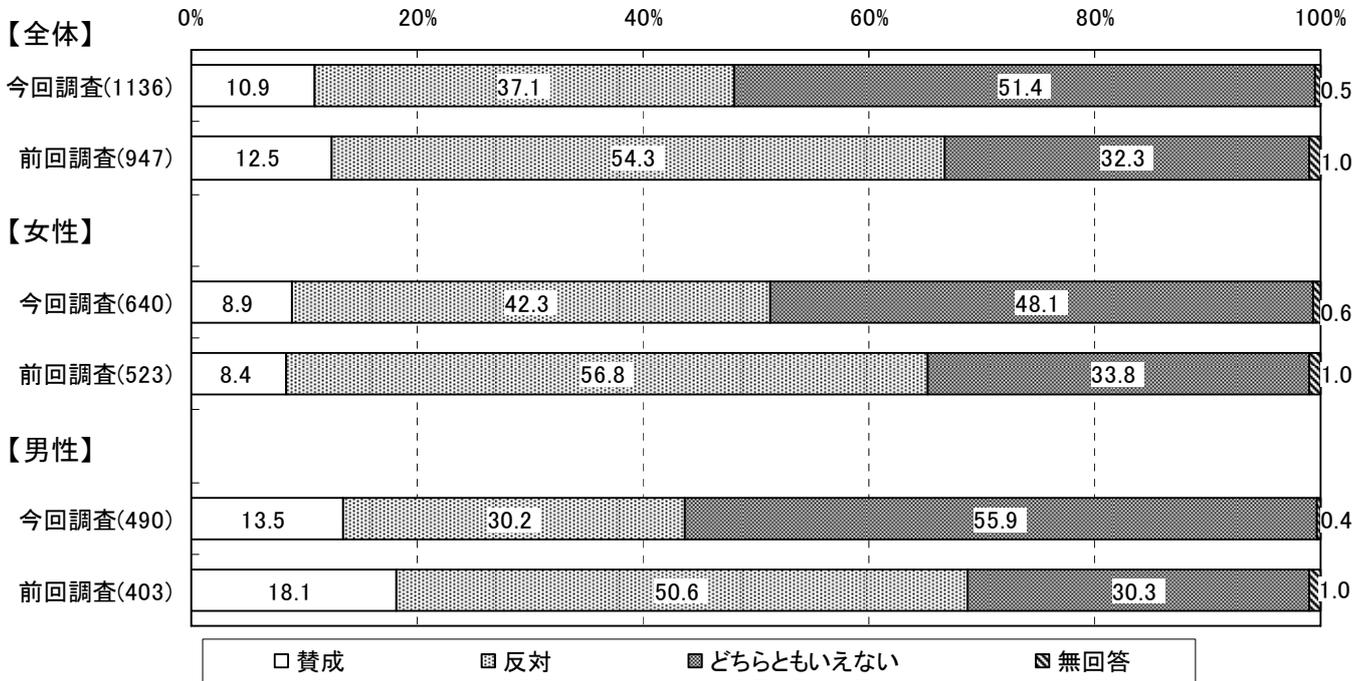


周知度が高い『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV 防止法)』は、各年代による差はあまりないが、『男女雇用機会均等法』については、20代 (女性 89.1%、男性 75.0%) において 14.1 ポイントの差がある。『男女共同参画社会基本法』については、他の年代に比べ、30代の周知度が低い。

『ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)』の周知度は、男女とも 20代 (女性 50.0%、男性 50.0%) で最も高く、年齢が上がるにつれて低くなっている。

(3) 「男は仕事、女は家庭」の考え方

問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について賛成ですか、反対ですか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。



「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識については、『反対』(37.1%)が『賛成』(10.9%)を26.2ポイント上回ったが、『どちらともいえない』(51.4%)が一番多い。『賛成』と回答している割合は女性で8.9%、男性で13.5%にとどまっており、『賛成』より『反対』の割合の方が男女とも高い(女性42.3%、男性30.2%)。

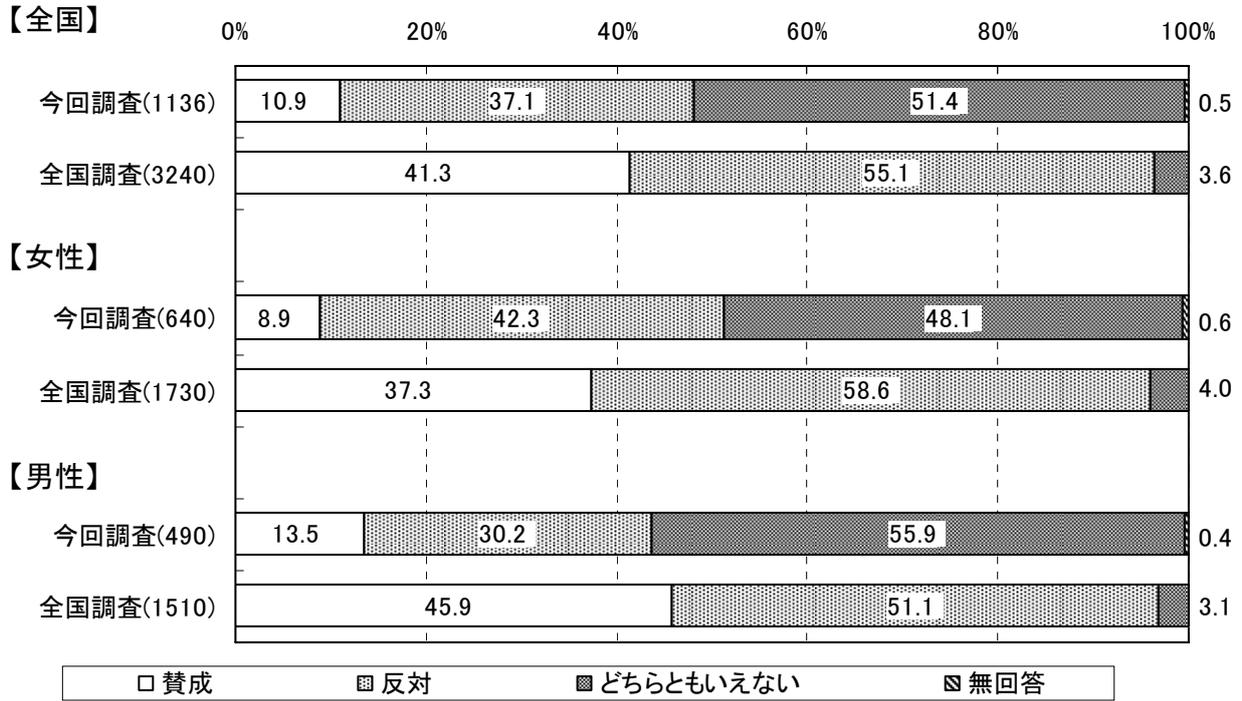
男女別にみると、男女とも『どちらともいえない』(女性48.1%、男性55.9%)がいちばん多いものの、『反対』(女性42.3%、男性30.2%)は、女性が12.1ポイント、『賛成』(女性8.9%、男性13.5%)は男性が4.6ポイント上回っており、固定的性別役割分担意識は男性の方が強いことが伺える。

【前回調査との比較】

平成16年に実施した調査と比較すると、『どちらともいえない』(前回32.3%、今回51.4%)が19.1ポイントの増加、『反対』(前回54.3%、今回37.1%)が17.2ポイントの減少、『賛成』(前回12.5%、今回10.9%)が1.6ポイントの微減となっている。

男女別にみると、前回50%以上を占めていた『反対』が男女とも減少(女性42.3%、男性30.2%)している。また、『賛成』については、男性(前回18.1%、今回13.5%)が4.6ポイント減少したのに対し、女性(前回8.4%、今回8.9%)は、0.5ポイントであるが前回より増えている。

【全国調査(平成 21 年)との比較】



内閣府が平成 21 年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」と比較すると、千葉県では男女とも『どちらともいえない』の回答が最も多く（女性 48.1%、男性 55.9%）、全体では、全国 3.6%に対し、千葉県は 51.4%と、47.8 ポイントも高くなっている。

また、千葉県・全国とも『反対』が『賛成』を上回っているが、『反対』の割合は、全国の 55.1%に対し、千葉県は 37.1%で、18.0 ポイント全国が高く、『賛成』も全国 41.3%に対し、千葉県は 10.9%で、30.4 ポイント全国が上回っている。

※ 全国調査における『賛成』『どちらかといえば賛成』をまとめて『賛成』、『反対』『どちらかといえば反対』をまとめて『反対』としている。

※ 全国調査における『わからない』は、『どちらともいえない』として比較。

【年代別】

男女とも各年代を通じて、『反対』と回答している割合が、『賛成』を上回っている。

女性では若い年代ほど『反対』の割合が高い傾向があり、女性の20代では、『反対』が56.3%と最も高く、『どちらともいえない』が34.3%であるのに対し、男性の20代では『どちらともいえない』が62.5%、『反対』が31.3%と逆転している。

【地域別】

女性で『反対』が多いのは、「香取・東総」「千葉東部」「かずさ・臨海」「南房総」である。

